

目 次

はじめに	1
目 次	2
第1章 今、なぜ小中一貫教育なのか	
I 小・中学校間の接続期における背景と課題	4
1 小中一貫教育が求められている背景	4
(1)小・中学校での指導の違い	4
(2)児童生徒の身体的発達の早まり	5
2 全国的に見られる課題	5
3 埼玉県に見られる課題	6
(1)学習意欲の低下	
(2)いわゆる「中1ギャップ」	
II 小中一貫教育とは	8
1 「小中連携」から「小中一貫教育」へ	8
2 埼玉県が考える小中一貫教育のねらい	9
〈参考1〉小中一貫教育に関する調査(意識調査)結果	10
第2章 埼玉県が考える小中一貫教育	
埼玉県が考える小中一貫教育のポイント	12
I 小中一貫教育推進のための組織をつくる	
1 中学校区の小中一貫教育に係る組織づくり	14
(1)推進準備委員会の設置	14
(2)推進委員会の設置	14
(3)小中一貫教育コーディネーターの位置付け	15
(4)専門部会の設置	16
2 市町村教育委員会での組織づくり	18
(1)学校をサポートする組織づくり	18
(2)市町村内の全小・中学校が小中一貫教育を導入するにあたっての組織づくり	18
(3)小中一貫教育に係る市町村教育委員会の担当者の位置付け	19
〈参考2〉八潮市小中一貫教育の準備組織等	19
〈参考3〉小中一貫教育推進モデル地区の組織	20
II 目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有する	
1 児童生徒の実態の把握・分析	21
(1)「確かな学力」の育成に関する実態把握・分析例	21
(2)「豊かな心」の育成に関する実態把握・分析例	22
(3)学校評価等を活用した取組例	22
(4)学級アセスメントを活用した取組例	22
2 中学校区の「目指す児童生徒像」、「重点目標」の設定と共有	23
(1)設定の方法	23
(2)共有の方法	23
(3)設定した「目指す児童生徒像」や「重点目標」の検証について	23
III 教員の意識をつなぐ	
1 小・中合同研修会	24
2 小・中合同授業研究会	25

IV 児童生徒の心をつなぐ	
1 学校行事等における児童生徒の交流	26
2 部活動を主とした児童生徒の交流	27
3 小・中学校教員によるチームティーチング	28
(1)実施手順	28
(2)効果	28
(3)実施のための工夫例	29
(4)チームティーチングの実践例	29
V 9年間を見通したカリキュラムを編成する	
1 編成手順	30
2 編成上の留意点	30
3 カリキュラム例	31
(1)編成の考え方	31
(2)算数・数学の例	32
(3)総合的な学習の時間の例	34
VI 家庭・地域と連携を深める	
1 家庭・地域の理解を深めるための実施方法例	36
2 家庭・地域との連携を深める取組	37
第3章 小中一貫教育のさらなる推進に向けて	
I 小学校同士や中学校同士のつながりの強化	38
1 県内の小・中学校の組合せの状況	38
2 期待される効果	39
3 市町村教育委員会の支援例	39
II 小・中学校教員の他校兼務	40
1 小・中学校教員によるチームティーチングの実施方法例	40
2 兼務の要件等	41
III 異校種の学校との連携等	42
1 異校種の学校等との連携の充実	42
2 他市町村との小中一貫教育ネットワークの構築	42
IV 小中一貫教育推進モデル【普及していきたい取組】	43
第4章 小中一貫教育推進事業モデル地区の実践例	
鴻巣市・川里中学校区	44
新座市・第三中学校区	46
入間市・東町中学校区	48
嵐山町・菅谷中学校区	50
熊谷市・妻沼東中学校区	52
深谷市・川本中学校区	54
春日部市・大増中学校区	56
宮代町・百間中学校区	58